

専門委員からの意見（全体の構成（骨格についての意見））

<専門委員に提案して頂いたスケルトン案>

① 1月4日提出版

・第1、第2、第3といった整理では論点が把握できません。スケルトンについての整理とそれにもとづいたリスク評価の方針についての議論をまず行うべきと考えます。

1. はじめに

経緯

- ・ 諮問の内容と中間とりまとめの食い違いに関する議論
- ・ 諮問についての検討開始にあたっての調査委員会の基本的理解
- ・ リスクコミュニケーションで出された意見（まとめ）

2. 厚生労働省と農林水産省からの意見聴取

- ・ 4つの項目についての質疑応答のまとめ

3. リスク評価に関する基本的考え方

3. 1 リスク評価のモデル（疫学報告書 p. 48、EU-GBR モデルなどを参考に作成）

- ・ 餌の汚染にかかわる要因（飼料規制、輸入飼料対策など）
- ・ 食肉汚染にかかわる要因（と畜・解体法）
- ・ トレーサビリティ

3. 2 評価対象としてのリスク・レベル

- ・ 人への感染源となる BSE プリオンのレベル（感染価）
- ・ 対策実施前と実施後の相対的変動

4. 諮問項目に関する見解

4. 1 と畜場における BSE 検査

- 4. 1. 1 これまでに得られている科学的知見（具体的事実と試算を区別、試算の限界について言及）
 - 4. 1. 1. 1 英国の感染実験データからの試算
 - 4. 1. 1. 2 日本の BSE 検査データからの試算
 - 4. 1. 1. 3 日本における BSE 汚染実態の推定確認例の内訳
リスク牛についての試算（試算の根拠を含む）

4. 1. 1. 4 飼料規制の効果に関する試算
4. 1. 2 と畜・解体法のリスク低減効果
4. 1. 3 飼料規制のリスク低減効果
4. 1. 4 検査月齢の見直しに関する見解

4. 2 SRM 除去の徹底
4. 2. 1 と畜・解体法の現状に関する問題点
4. 2. 2 SRM 除去の改善に関する見解

4. 3 飼料規制の実効性確保の強化
4. 3. 1 国産飼料の規制に関する問題点
4. 3. 2 輸入飼料に関する問題点
4. 3. 3 飼料の検査方法の問題点
4. 3. 4 飼料規制の強化に関する見解

5. トレーサビリティに関する見解

6. 調査研究に関する見解
 - ・検査陽性牛の有効利用も含めて

7. おわりに
 - ・限られた科学的知見にもとづくリスク評価の困難性
 - ・定量的リスク評価の専門家の協力の必要性
 - ・リスクコミュニケーションの結果の反映の必要性
 - ・その他

②1月15日提出版

1) 全体を通して

1. はじめに

経緯

審議方針の概略

諮問の各項目についての質疑で提示された問題点の整理

評価方法：既知の事実の整理

定量的リスク評価の方法と限界

定性的リスク評価

リスクコミュニケーションで提起された問題点の検討

見解の整理（以下にもとづく）

定量的リスク評価、定性的リスク評価

リスクコミュニケーションでの意見

複数見解の併記もありうる

2. 意見聴取：質疑応答のまとめ

提示された問題点の整理

回答に関する見解

3. リスク評価に関する基本的考え方

3. 1 リスク評価モデル

トレーサビリティの位置づけを検討

「*くず肉—MBM—廃棄」は図に含め、リサイクルに廻らないことを明示

3. 2 暴露リスク・レベルの評価方針

基本的考え方

定量的評価：絶対数ではなく、相対的変動の推定

評価の根拠となるデータ（文献などを明示）

前提条件の明示

技術的限界

定性的評価

4. 諮問項目に関する見解

4. 1 と畜場における BSE 検査

4. 1. 1 リスク低減効果の比較（月齢線引きの場合）

月齢線引きに関する科学的知見

具体的事実（英国、日本）

4. 1. 2 評価の基本方針（BSE 検査、SRM 除去、解体法、トレーサビリティを考慮）

日本における汚染実態の推定（試算）

推定の根拠

推定にかかわる問題点と限界

BSE 検査によるリスク低減効果に関する定量的評価

（月齢線引きの場合）

飼料規制

実態

リスク低減効果の推定（試算？）

4. 1. 3 検査月齢の見直しに関する見解

リスク低減効果（定量的評価、定性的評価）

推定にかかわる問題点と限界

リスクコミュニケーションとでの意見の取り扱い

4. 2（SRM 除去）、4. 3（飼料規制）、4. 4（トレーサビリティ）の面を含めた総合
的見解

4. 2 SRM 除去の徹底

4. 2. 1 SRM に関する科学的知見

4. 2. 2 と畜・解体法の現状に関する問題点

リスク低減効果への影響

定量的評価？

定性的評価

4. 2. 3 SRM 除去の改善に関する見解

4. 3 飼料規制の実効性確保の強化

4. 4 BSE に関する調査研究の一層の推進

おわりに